旭地区町内会長会との意見交換会で寄せられた意見（令和８年８月協議）

（テーマ）

・旭地区の生活環境・地域活動について

No	旭地区町内会長会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	旭地区には工業団地があり、多くの企業が立地しているが、それぞれが何を製造している企業か分からない。また、造成工事をしているが、区画が小さく寄せ集めの工業団地となっている。国は、国策として産業集積を進めており、周辺の市でも大型投資の話があるが、白山市として取組はないのか。（立地・アクセス・地盤の良さ） また、工業団地の目指すもの、目的・目標を示してほしい。 **【意見交換会での担当班（議員）の回答】** **白山市としても国策で半導体企業を誘致すべきと、議会でも質問している。昨年度、市役所内に誘致プロジェクトチームを立ち上げたと聞いた。議会としても積極的に働きかける。**	【産業建設常任委員会】 半導体関連企業及びデータセンターの誘致に取り組むため、令和７年度から庁内で有識者を招き、勉強会を５回重ねてきておりました。また、令和８年７月からは、企業誘致関係部署の部長級で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、新たな誘致に取り組んでおり、国、県に対し、積極的に連携を働きかけ、誘致企業への市長のトップセールスを重ねていき、精力的に進めてまいります。 次に工業団地の目指すもの、目的、目標についてでございます。工業団地の開設によって、企業の集積により既存企業との連携を図り、業績向上につなげてまいります。また、これまでにない新たな技術の集積、若者などの人材確保と雇用の創出、市税の増収にもつながると考えており、地域産業の活性化と職住近接のまちづくりが着実に進むと考えております。
2	除雪について、地域に住む人の力だけで行う除雪は厳しい。市の除雪路線以外のところも除雪してほしい。もしくは、生活道路の地元の除雪費補助をしてほしい。 市で除雪機の購入補助はあるが、除雪機を地区内に適切な保管場所がないため、除雪機の置き場所やメンテナンスの課題がある。除雪機リースやレンタルに対する補助があれば、利用しやすい。	【産業建設常任委員会】 市の除雪路線拡充については、限られた除雪業者や除雪機械で実施していることによる持続可能な除雪体制の構築が課題となっております。毎年、当該年度の除雪体制を踏まえ、見直しを実施しておりますが、全ての市道の除雪を行うことは現実的に困難であると考えております。 雪害対策は、自助、共助、公助が連携した取組が必要と考えており、引き続き地域の皆様の御協力を頂きながら、冬期の道路交通の安全確保に取り組んでいきたいと考えております。 また、町内会で除雪業者へ委託する場合や除雪機械のリースに対する補助につきましては、現時点で新たな補助制度の創設は考えておりません

		が、近隣市町の事例等も参考に今後検討してまいりたいと考えております。
3	外国の方について、ごみ分別等、マナーを守ってほしい。	【総務企画常任委員会】 外国人の方のごみ分別のマナー問題については、廃棄物対策推進員の研修においても対応に苦慮しているとの御意見が多く寄せられております。現在、技能実習生の受入れに携わる団体や雇用主からの要請により、外国人の方に対しごみ分別のルールについての講座を行っております。この講座は昨年度７回開催しましたが、今年度は令和８年５月から毎月１回開催しております。昨年度の７回の中には、湊地区の日本語カフェに出向き、町内会と地区の外国人の方たちが交流を深めながらごみ出しルールについて御理解を頂いたものも含まれております。 また、相談のあった町内のごみ集積所に外国語表記の説明やイラストの看板を掲示するなど、周知の取組を行っております。ほかにも英語・中国語・ベトナム語などの外国語版ごみカレンダーをホームページに掲載したり、御希望のあった雇用主やアパート等に配布いたしております。 今後も町内会の皆様と連携しながら、雇用主に働きかけるなど対応してまいりたいと考えております。
4	北鉄バスが廃止になったこともあり、めぐーるのバス本数を増やしたり、高齢者で自転車に乗れる方ばかりでなく、オンデマンドバスやシェアバスを配置したりできないか。 また、イオンモール白山に行けるバスがあると便利である。また、イオンや民間企業でバスを運行する方法もあるのではないか。	【総務企画常任委員会】 めぐーるは高齢者等の買い物や通院をはじめ、通勤・通学など生活に密着した生活の足として、旭地区では北ルートを運行しています。コミュニティバスを取り巻く現状は、全国的にバス運転手が不足し、また運転手の労働時間の短時間化の是正も進められている中、現行のルートや便数を維持することに努めているところであり、現在の財源確保も含め、現状では増便することは難しい状況です。めぐーる以外の交通形態については、担い手の確保や運行費用などの面からめぐーるとの併用は困難であり、利用状況並びにメリットとデメリットを考慮した上で、現行の定時定路線の交通網を維持し、利便性を向上させる取組を進め

		ることが重要と考えております。 また、イオンモール白山行きのバスについては、北鉄白山バスが運行する路線バスが運行されており、それぞれ宮永・宮永市のバス停に停車いたします。松任駅からイオンモール白山へ行くバスは平日ですが５便、イオンモール白山から松任駅へ行くバスは平日ですが３便あります。また、イオンモール白山へはめぐーるの北ルートが福増のバス停に停車しますので、そこから徒歩で行ける範囲かと思っております。 なお、イオンやその他の民間事業者がバスを運行することについては、事業者において判断されるものと考えております。
5	地域住民に周知するため、二次避難施設の備蓄品リストを欲しいと担当課に確認すると、リストは公表していないとのことだった。知らされないと、何をもって避難すればよいかわからない。リストがあるのになぜ出せないのか。	【総務企画常任委員会】 ２次避難施設であるコミュニティセンターや小・中学校への備蓄品配備は、倉庫等の収納スペースは面積によって異なり、現状のスペースに合わせて数量を決めております。市では２次避難施設の分散備蓄と消防本部などの拠点倉庫への集中備蓄を行っており、災害時には拠点倉庫から避難地域へ物資を輸送することとしております。施設ごとの備蓄数は公表しておりませんが、市全体の備蓄数は今年７月からホームページで公表しておりますので、参考としてください。 なお、避難所に備蓄があるから家庭での備蓄は要らないということではありませんので、家庭ではそれぞれのニーズに応じた備蓄を行っていただきたいと考えております。なお、コミュニティセンターの防災倉庫には、均等割・人口割で一定数量を備蓄しております。
6	積雪時、中学生は自転車通学ができなくなり、冬季のみでもバスがあればよい。	【文教福祉常任委員会】 旭地区に属する町内会の中学生は北星中学校に行く一部の生徒を除き、光野中学校の校区になります。現在、白山市遠距離通学等児童生徒交通費補助金交付要綱に基づき、一部の町内会の方には補助を行っているところです。 市民の皆様から出た意見で、冬季のみでもスクールバスがあればよいとのことですが、本市での

		スクールバスの利用については、小学校の通学を基本としており、現在使用しているスクールバスを中学校の登下校に利用することは難しい状況です。 また、スクールバスを増便するには、新たな車両の購入や運転手の確保の必要がありますが、昨今の全国的なバス運転手不足の影響は極めて深刻な状況です。 本市でもスクールバス運行管理業務の入札において、運転手不足を理由に、辞退されたり、入札が不調になるといった事態が発生しており、スクールバスの増便は非常に困難な状況で難しいと考えております。